

「広報しながわ」平成20（2008）年7月1日号より転載
（イラスト：池原昭治）



時代の発展とともにかむろ山は削られ池もなくなり、現在そのおまかげは坂道の名にしか残されていません。周辺には権八・小紫ゆかりの二つの塚、連理塚（安楽寺／西五反田五丁目）と比翼塚（瀬泉寺門前／目黒区下目黒三丁目）があります。また、平井権八は歌舞伎や浄瑠璃の主人公「白井権八」としても登場しています。

品川昔ばなし むかし

西五反田



かむろ坂

山手通りから武蔵小山方面にぬける、桜並木で知られる坂道のことを、「かむろ坂」と呼んでいます。この坂は、この辺りで起きた次のような話から、「かむろ」の名前がついたといわれています。

今から三百年ほど昔、人々に乱暴ばかり働いている平井権八という武士がいました。権八はついに役人に捕まり、延宝七年（1679）に鈴ヶ森の刑場で処刑され、東行寺（目黒区下目黒三丁目付近にあった）に葬られました。

そんな権八には、おいらんの小紫という恋人がいました。小紫は働いている店の客から「権八が処刑された！」と聞き、いてもたってもいられなくなって店を抜け出し、寺へと向かいました。権八の墓の前に着くと、小紫は「あなたとは夫婦になる約束でしたね……」と言って、命を絶ってしまったのです。

いくら待っても帰ってこない小紫を心配した店の主人は、小紫が一番かわいがっていた下働きの「かむろ」と呼ばれていた少女を東行寺まで迎えに行かせました。遠い道をやっとの思いで寺までたどり着いたかむろは、寺の人に聞きました。「小紫さんはどこですか？」「小紫はすでにこの世の人ではなくなってしまったのだよ…」。途方に暮れたかむろは、なすすべもなく、もと来た道を泣きながら帰っていきました。

帰る途中、突然やぶの中から怖そうな男たちがかむろに襲いかかってきました。近くには助けを呼べる人や家もありません。逃げ切れずついに力尽きたかむろは目の前の池に飛び込み、命を落としてしまいました。

この悲しい話を聞いた村人はかむろのことをかわいそうに思い、なきがらを丘に葬ることにしました。いつしか、この場所は「かむろ塚」のちに「かむろ山」と呼ばれるようになりました。

ほかにも、かわいがってくれた小紫の死を悲しみ、かむろが自ら池に飛び込んだという説もあります。